

(学校番号063) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【七里小学校】

4月8日		
目標・策		
知識・技能	令和元年度さいたま市学習状況調査の国語「言語についての知識・理解・技能」、算数「数量や図形についての知識・理解」の自校調査結果より、令和4年度さいたま市学習状況調査国語・算数の「知識・技能」において2pt上回る。	⇒
思考・判断・表現	令和元年度さいたま市学習状況調査の算数「数学的な見方や考え方」の自校調査結果より、令和4年度さいたま市学習状況調査国語・算数の「思考・判断・表現」において2pt上回る。	⇒
主体的に学習に取り組む態度	「よい授業」アンケートの4つの因子の内、「4児童生徒の活動」の数値を全教職員が教職経験年次の目標値を上回る。	⇒

9月2日				
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)				
知識・技能		変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現		変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度		変更なし	⇒	変更なし

8月23日	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>2学期が始まる前に調査結果と分析の共有を全教員で行った。3教科共通での傾向としては、長文から必要な情報を見つける力に課題があると考えられる。日常の学習から日本語としての言葉の組み立てを大事にしていくことで、基礎学力向上につながることも調査問題の意図的確に捉えることができるようにしていく。また、さらなる学習規律の向上に努めていく。質問紙調査では、「学校に行くのが楽しい」と答えた児童の割合が全国を大きく上回っている。児童の意欲を大切にしながら今後も授業改善を進めていく。</p> <p>以下に教科ごとの分析をまとめる。国語において、思考・判断・表現に関わる「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」及び「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」という趣旨の問題の正答率に課題が見られた。算数においては、特に「割合」に関する複数の問題と「示されたプログラムについて、正三角形を書くことができる正しいプログラムに書き直す」問題について課題が見られた。示された割合が実際の大きさのどれくらいにあたるかを明らかにしながら授業を進める。</p> <p>理解が不足している場合には、基礎的な反復練習を行う。理科においては、「天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ」問題に課題が見られた。基本的な知識があれば正解できる問題でも、いくつかの条件が加わると判断が難しくなると考えられる。知識の定着を図りながら、思考の流れを重視した授業を行っていく。</p>	

2月17日			
さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語では、主語と述語の関係を理解していることを確かめる問題に課題が見られた。前学年で学習している漢字を正しく使うことができるかを確かめる問題においては、課題がみられる字と比較的知識の定着がみられる問題があった。算数では、特に減法、除法について適切に判断する問題について課題がみられた。	小4	国語では、前学年で学習している漢字を正しく使うことができるかを確かめる問題、主語と述語の関係を理解していることを確かめる問題ともに良好な結果がみられたが、目的に応じて文章を読むことができるかを確かめる問題には課題がみられた。算数では減法と除法を混合した計算の問題において課題がみられたが、良好な結果の問題もみられた。
小5	国語では、主語と述語の関係を理解していることを確かめる問題に課題が見られた。算数では、四則の混合した式についての理解を確かめる問題に課題がみられた。社会では、方位や地図記号の理解を問う問題で課題がみられたが、日本の気候についての理解を確かめる問題や、日本の食料生産や食生活についての理解を問う問題では良好な結果がみられた。理科では、全体的に良好な結果がみられたが、空気の体積の変化についての理解を問う問題では課題がみられた。	小6	国語では、主語と述語の関係を理解していることを確かめる問題に課題が見られた。算数では、拡大図や縮図についてや、比についての理解を問う問題で課題がみられたが、線対称についての問題では良好な結果がみられた。社会では、方位や地図記号の理解を問う問題で課題がみられたが、三権分立についての理解を問う問題では良好な結果がみられた。理科では全体的に概ね良好な結果がみられたが、水のはたらきによる地層のできかたについての理解を確かめる問題については課題がみられた。

2月20日		
成果指標に対する達成状況		評価(※)
知識・技能	基本的な知識・技能については、学校全体としては大きな変化なく推移している。問題によっては、学年によって、正答率を落としてしまっていることがあった。	B
思考・判断・表現	問題を読み解いていき、解答をだすということに難しさを感じる傾向があり、全体的に課題が見られた。	C
主体的に学習に取り組む態度	概ね達成できている。	B

3月10日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	授業で学習した内容をその時は理解しても、その内容が定着していないという事例が見受けられた。学習で積み上げたことを実感させて、自信を持たせるとともに、次の学習への意欲も高めていく必要がある。本校の各学年ごとの実態に応じた独自の「学力向上ワークシート」を作成し、くり返し取り組む。ワークシートの内容は、今後実態に応じて改善していき、より完成されたものとしていく。また、母語である日本語の習熟のために「ことばへの気づき」のための課題を作成して取り組む。
思考・判断・表現	思考を深めていくための前提となる文章を読み解いていくことや、目的をもって書くという活動のより一層の充実が必要である。また、本校の各学年ごとの実態に応じた独自の「学力向上ワークシート」を作成し、くり返し取り組むことで学習で積み上げたことを実感させて、自信を持たせるとともに、次の学習への意欲も高めていく。ワークシートの内容は、今後実態に応じて改善していき、より完成されたものとしていく。
主体的に学習に取り組む態度	学習規律のより一層の向上が望まれる。ICT活用については、扱い方やマナーの向上による、より効率的な使用を目指していく。新年度当初において、前年度からの課題を全職員で共有するとともに、日常から学習ルールの徹底と個に応じた指導に努め、児童の学習意欲の向上を図るとともに、授業を通して「わかった、できた喜び」を積み重ねていく。また、学校課題で取り組んできた特別活動で積み上げた自分の考えを伝え合う活動で向上したスキルが他教科の授業でも生かせるようにしていく。

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)